

TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会 3/25 日 ベルブホール (ベルブ永山 5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)



第40回日本アカデミー賞最優秀主演女優賞 宮沢りえ、最優秀助演女優賞 杉咲花
上映会当日は中野量太監督のトークあり!

湯を沸かすほどの熱い愛



©2016「湯を沸かすほどの熱い愛」製作委員会

脚本・監督：中野量太
宮沢りえ、杉咲花、篠原ゆき子、駿河太郎、伊東蒼／松坂桃李／オダギリジョー
配給：クロックワークス 2016年／125分／カラー

上映スケジュール

10:30 — 12:35 第1回上映
12:35 — 13:10 ゲストトーク
13:30 — 15:40 第2回上映
16:00 — 18:05 第3回上映
18:30 — 20:35 第4回上映

チケット料金

前売 一般	1,400円
当日 一般	1,800円
シニア(60歳以上)・学生	1,200円
子ども(4歳～小学生)	1,000円

(TAMA映画フォーラム支援会員、障がい者と
その付添者1名は当日1,000円です)

- *全席自由席・各回入替制
- *開場は各回15分前
- *上映時間に変更になる場合があります。
- *ゲストトークはチケット(半券含む)
提示で入場できます。

企画者からのメッセージ

春の訪れを感じる今日この頃。今年2回目の特別上映会は心の芯からほっかほっかに温めてくれる『湯を沸かすほどの熱い愛』をお届けします。本作は昨年10月の公開からほぼ半年、口コミで評判が広がり、現在もロングラン上映が続いております。

余命2ヶ月を宣告されてもそれにめげることなく家族の新たな形を築いていく肝っ玉母さん役を宮沢りえ、ひきこもりがちの生活から立ち直っていく娘役を杉咲花が演じています。このふたりは先日の日本アカデミー賞の最優秀主演女優賞・最優秀助演女優賞をはじめ多数の映画賞を受賞し、最強の母娘役と相成りました。

そして、17年前の第1回TAMA NEW WAVEでグランプリを受賞した中野量太監督のメジャーデビュー作でもあります。報知映画賞の作品賞、ヨコハマ映画祭・高崎映画祭の監督賞はじめ、中野監督も高い評価を受けています。全作オリジナル脚本を携えて作品を撮られています。作風同様に人間味溢れるお人柄なので、トークもどうぞご期待ください。

(飯田 淳二)

東京藝術大学大学院映像研究科 映画専攻
第 11 期生修了制作展
@ユーロスペースに行ってきました！

(佐藤友則)



『みつこと宇宙こぶ』

(2017/40 分 / 竹内里紗監督)

『みちていく』(2014) が第 15 回 TAMA NEW WAVE コンペティションにてグランプリを受賞し、2015 年に劇場公開。

みつこのその丸っこい姿と腕っぶしの強さは、小怪獣（ミニラ？ モスラの幼虫？）を思わせる。冷静な突っ込みを入れる眼鏡の少年（「めがねくん」と呼びたいいいキャラ）を力て押し伏せるほど、彼女は同級生の男の子のこぶに執着している。彼女にとってこぶは世界そのもの。膨らむこぶの妄想は、やがて宇宙をこぶと化す。そのこぶの球形はすなわち繭の機能を果たし、彼女はそこで大人へと成長していく。思春期の性の成長は、あまり直接的には描かれず、フラミンゴやサイレント映画といった間接的な要素で暗示されるのが小気味よい。

みつこが「めがねくん」が日々の生活を過ごし成長する本作は、冒頭のホームビデオに取り残された幼少期のみつこという王女を、愛らしい「めがねくん」という騎士が救出する（とまでは言わずとも脱出をお世話するとは言えるだろう）お話とも見ることができるだろう。彼らの物語に親御さんの協力は不要である。みつこが世界との結び付きを回復する、二人の手を繋ぐ後ろ姿のショットが美しい。『みちていく』でもそうだったが、竹内監督はキャラクターを動きで端的に語るのがうまい。児童絵本のような遊び心溢れる仕掛けも施され、成長や生と死の様々なモチーフが 40 分の中にギュッと詰まった、にぎやかで魅力的な作品に仕上がっている。

監督・脚本：竹内里紗 / 脚本協力：峰尾賢人 / プロデューサー：池本凌太郎 関口海音 / 撮影：松島翔平 / 照明：諸橋和希
美術：侯捷 / 出演：小松未来 金田悠希 島野颯太 宮野叶愛 百合原舞 伊原聖羅 ほか
【あらすじ】最近「こぶ」の中身についてよく想像をふくらませてる。学校に行く道でも、お風呂に入っている時、夜に眠れないときも、ずうっと考えちゃう。だって「こぶ」の中身がわかれば、他のことについてもわかるような気がするんだ。

2月18日（土）特別上映会レポート

アスファルト

2017 年第 1 回特別上映会。例年 1 回目の特別上映会は、観客の入りが悪くというジンクスあり。不安のなかでの上映会当日。

今回の上映作品は、劣化した団地を舞台に三組の男女の不思議な出会いの物語。単純に進んで行かないのは常道で、加えてフランス映画ならではのスパイスが素敵に効いている。

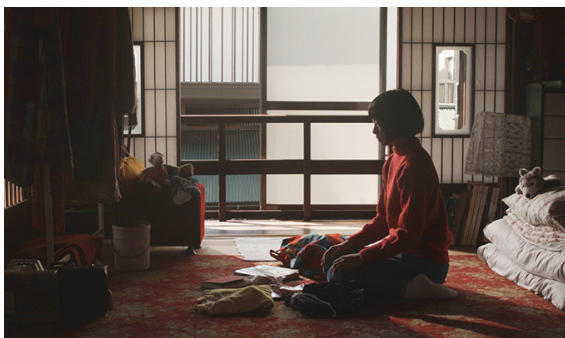
開場 15 分前、観客そこそこ。今年もかと思うなか、廊下に次々と人が集まりだす。上映開始まで途切れることなく入場者が続き、ほっと胸をなでおろす。

上映後、今回のゲストの「団地団」がご登壇。脚本家、作家、編集者等さまざまな分野から、ただ団地が好きで団地を語りたいという一点で作られたユニット。



過去に TAMA NEW WAVE で作品が上映されたことのある監督二人が参加している同特集に行ってきました。満席の回もある程多くの方が集まり、新たな才能への注目が高まっているのがひしひしと伝わってきました。

今回はその2作品(『みつこと宇宙こぶ』と『わたしたちの家』)をご紹介します。



『わたしたちの家』

(2017/80分 / 清原惟監督)

『ひとつのバガテル』(2015)が
第16回 TAMA NEW WAVE
コンペティションにノミネート。

ブラックホールのように時空を歪ませ二つの世界を繋げる日本家屋の魔空間が素晴らしい。ラジオの混信のように届くもう一つの世界の徴候は、偶発的な投壘通信か。プレゼントの形をしたそれはパンドラの箱か。一切の説明を抜きに、いくつかの要素がシンクロし、二つの世界が近づき合う。

男の侵入を拒む女たちや、「謎」の存在は、容易にリヴェット作品を想起させる(タイトルも『彼女たちの舞台』(1989/リヴェット監督)と似ている※1)。しかし例えば両世界の『インターステラー』(2014/ノーラン監督)的な局所的で具体的な接続の描写が、両世界を混濁させることなくあくまで並行関係のまま保持するところに、アメリカ映画的というか娯楽映画的な快活さも覚えるのは、おそらく筆者だけではないだろう。

岸辺の女学生二人と、船上の女二人。どこか終末観漂う海辺のこちらとあちら。一軒家を媒介にして交わされる彼女たちのコミュニケーションに只ならぬ緊張感を覚える作品である。

※1. しかも同作の原題は、“LA BANDE DES QUATRE”(「四人組」の意)である

監督：清原惟／脚本：清原惟 加藤法子／ロデューサー：池本凌太郎 佐野大／撮影：千田瞭太／照明：諸橋和希／美術：加藤瑤子／出演：河西和香 安野由記子 大沢まりを 藤原芽生 菊沢将憲 古屋利雄 吉田明花音 ほか
【あらすじ】ある一軒の家には二つの時間が流れていた。14歳のセリは母親の桐子と二人暮らし。セリは桐子が新しい恋人をつくったことに反発している。ある日、セリはお父さんの倉庫からクリスマスツリーを出してきて……。

今回はアニメ「攻殻機動隊」脚本の佐藤大さんと編集者の速水健朗さんがご来場。多摩センターの団地の話をスパイスに、この映画をさまざまな角度から解説。絶対に見せるであろう場面を見せず、映画のなかの疑問の答は映画を観ている観客しか解らないなど、そのトークは観客をぐいぐい引き込んでいきました。

上映会終了後、ご来場者のアンケートは「素敵な映画をありがとう」のコメントで占められており、今年度の特別上映会の楽しみな展開を予測させる第1回目の上映会でした。

(竹内昇)



佐藤 大氏と速水健朗氏

次回特別上映会は5月6日(土)ベルブホール

上映作品・スケジュールなど詳細は <http://www.tamaeiga.org/> にてお知らせします。お楽しみに！

お知らせ コーナー

実行委員募集！

TAMA 映画フォーラム実行委員会は、2017年11月18日～11月26日に開催予定の第27回映画祭 TAMA CINEMA FORUM を一緒に作る実行委員を募集しています！興味のある方、企画・運営などの映画祭の裏側に携わってみませんか？

上映プログラムを企画したい、イベント運営に興味がある、広報・宣伝をやりたい... など、映画祭づくりの現場には、あなたの希望に沿って力を発揮できる領域がたくさんあります。また、映画好きやイベント好き、地域の方々など、市民が作る映画祭だからこそのお会いがあなたを待っています。

4月16日(日)に説明会を開催いたしますので、興味のある方はお申込のうえ、ぜひご参加ください。また、説明会は今後も5月に開催を予定しておりますが、日程の合わない方は個別に説明いたしますので、お気軽にご相談ください。

詳細は <http://www.tamaeiga.org/> をご覧ください。

支援会員制度のお願い

当映画祭を一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「観る人、観せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願い致します。

[支援金寄付 個人会員] 一口1000円
郵便振替番号 00160 - 5 - 541123
加入者名 TAMA 映画フォーラム実行委員会
(ご不明な点はお問い合わせ下さい)

特典①：映画祭チラシ送付
特典②：映画祭パンフレット贈呈
特典③：特別上映会割引(当日チケットを、支援会員特別価格に。上映会は2～8月の間に4～5回開催予定)

※その他特典もご用意する予定です。

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ www.tamaeiga.org

 @tamaeiga (最新情報をフォロー)  www.facebook.com/tamaeiga (facebookページに「いいね!」で参加)